

(山上臣憶良の松浦の歌三首)

八六八番

松浦まつらがた 湯 佐用姫さよひめの児こが 領巾ひれふ振りし 山やまの名なのみ

や 聞ききつつ居をらむ

八六九番

足日女たらしひめ 神かみの命みことの 魚釣なつらすと み立たたしせりし
石いしを誰たれ見みき

八七〇番

百日ももかしも 行ゆかぬ松浦道まつらぢ 今日けふ行ゆきて 明日あすは来き
なむを 何なにか障さやれる

(領巾磨嶺を詠む歌一首)

八七一番

遠とほつ人ひと 松浦まつら佐用姫さよひめ 夫恋つまこひに 領巾ひれふ振りしより
負おへる山やまの名な